

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：吉賀孝則
(浜田市立国府小学校)

編集：情報部

VOL.71 2021.8.8 (夏祭号)

発行責任者 坂井 佳恵 (大和中学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 今年度の事業について (会長)
- ▶ 研究部コーナー
- ▶ 研修報告
- ▶ 学校事務職員は大きな存在である
- ▶ 事務グループ・共同学校事務室の取組 (浜田市)
- ▶ 学校紹介
- ▶ まんが「しまじいとけんくん」
- ▶ 編集後記



今年度の事業について



会長 吉賀孝則

今年も暑い夏となりました。新型コロナウイルス感染防止対策と合わせ、熱中症対策等にも気をつけなければならない時期です。子どもはもちろんですが、大人の私たちも体調管理に気を付けて、暑い夏を乗り切りましょう。

さて、5月14日にあすてらす(大田市)において、第1回理事会・代議員会を参集型で開催いたしました。活動方針、事業・予算について承認をしていただき、今年度の島事研活動が本格的にスタートしました。島事研の目的を念頭に置き、島事研の発展・向上に努めて参りますので、会員の皆さん、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

昨年度は中止としましたが、例年、研究大会は11月、島事研セミナーは1月に開催をしていました。今年度は、例年の開催時期より、約1か月早い開催としております。主な理由は2つあります。1つ目は、全事研(埼玉)大会が東京オリンピック競技大会の開催期を回避するため、1月開催であること(※参集型の予定でしたが、今年度4月にコロナ禍のため、Web開催となりました)。2つ目は、中国地区公立小中学校事務職員研究会の主管が島根支部であり、島事研セミナーを中国地区事務研大会(仮称)と兼ねて開催することです。詳細については、開催要項をご覧いただければと思いますが、第51回研究大会は10月22日に出雲市民会館、中国地区事務研大会兼島事研セミナーは12月10日にビッグハート出雲で開催します。いずれも終日・参集型の大会として、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえながら、現在準備を進めております。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催時期や会場、方法等の変更があるかもしれませんので、その際にはご理解をいただければと思います。

最後に、ワクチン接種が順調に進み、コロナ禍が1日でも早く収束することを願うとともに、両事業を開催し、皆さまとお会いできることを期待しております。





第六次研究中期計画の紹介

今次の研究中期計画は「事務をつかさどる」ことを意識した研究活動を行うことを通して、『学校事務職員として成長する』ことを目指しています。

今回、本年度の研究大会でお伝えする第六次研究中期計画の内容について、簡単にお伝えします。

各自でイメージを持っていただいた上で、研究大会で研究部からの説明を聞いてくだされば幸いです。



○第六次研究中期計画のテーマ

学校事務職員として成長するための研究活動～「つかさどる」を意識した実践をとおして～

私たちはこれまで、島事研はもちろん、各地域の研究組織等で研究活動を行ってきました。

また、新規採用者をはじめ、毎年、私たちの研究活動に新たに携わる方もいらっしゃいます。

そうやってたくさんの方々が研究活動に関わる中で「ではなぜ研究活動を行うのか」という理由を考えたときに『学校事務職員として成長するため』だと思い、それを今次の研究テーマとしました。

研究組織として、このテーマはちょっと異質かもしれませんが、でも、取り組む理由は大切だと思います。

今後は島事研という組織の中で、「事務をつかさどる」ことを意識したお互いの実践を通して学び合いながら、今の自分と向き合い、学校事務職員という職の理解を深めていきましょう。それが『学校事務職員としての成長』そのものだと考えます。

○今次の研究の進め方



1. 「基礎研究」と「応用研究」

これまでの研究中期計画では、研究部が、これからの学校事務職員に必要と思われる能力やスキルを見通した上で「研究の指針」となるものを示し、そのことについて数年間研究活動を行うという形をとってきました。

しかし「事務をつかさどる」ということを目に見える形にするための研究をしようと考えたときに、学校事務職員一人ひとりの経験や地域性に違いがある中で、最初から研究部が「研究の指針」を示して研究活動をするよりも、皆さんの普段の取組の中から「研究の指針」となるものを見つけてみようと考えました。

そこで、今後は研究活動を前後半にわけます。

前半では「基礎研究」という形で、会員の皆さん一人ひとりに研究活動に取り組んでいただきます。

そして、後半部分では、「応用研究」という形で、組織的な研究活動を進めたいと思います。

「基礎研究」で得られた研究成果をもとにして、「島根県に勤務する学校事務職員が考える『事務をつかさどる』とはこういうことじゃないか」というものを研究部で探り、「研究の指針」を示しながら「応用研究」につなげたいと考えています。

「事務をつかさどる」ということについて、「今の自分」はどう考え、どう形にしていくのか、仮説を立て、実践し、検証することが基礎研究になります。

今次の研究を進めるにあたり、『島事研という研究組織が考える「事務をつかさどる」とはこういうことだ』というものを研究中期計画には示しています。それはどういうものなのか…研究大会でお伝えしたいと思っています。

2. 「資質能力向上支援システム」

いきなり「基礎研究、それは個人での研究になります」と言われても、とまどわれると思います。

「やること増やすんですか?」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。

ただ、「事務をつかさどる」ことを意識しながら『学校事務職員としての成長』を目指す研究活動を進める上で、会員個々の取組は重要だと考えます。

そして、会員個々の取組となると、その研究主題の設定と研究実践の成果は、普段の業務・仕事と強く結びついていることが大切なのではないのでしょうか。

そこで、普段の業務と研究の結びつきを強めるために、島根県教委が策定している「教職員評価システム」の一部である「資質能力向上支援システム」と関連付けます。

詳しくは研究大会で説明しますが、「島事研が考える『事務をつかさどる』ことを意識した、自己目標の設定」について、考えることから始めましょう。

○基礎研究で使用するツール

基礎研究を効果的に進めるために、次のツールを使用する予定です。

詳しい使い方は、研究大会の研究集録に掲載しますので、ここでは簡単に紹介します。

1. 実践内容例

私たちが普段行っている業務や仕事について、一覧にまとめたものです。

研究主題を考える際に活用してください。



2. 研究の記録

1年間の研究の記録になります。

目標の設定や実践した内容、そして、実践を行う上でどんなアドバイスを受けたかといったことまで、記録しておくものです。



3. Kintone (キントーン)

研究の記録をデータベース化するものです。

クラウドにデータが保管されますので、他の学校事務職員が「事務をつかさどる」ためにどんな取組をしているのかを、すぐに確認することができます。研究部は、蓄積されたデータを元に、今後の研究活動の推進について検討できるようになります。

ここまで、今次の研究中期計画とそれを形にするための取組について書きました。

全てを紹介したわけではありませんが、これまでの研究活動とは形が違うので、とまどいや不安を感じる方もいらっしゃると思います。

ただ、研究部としては「事務をつかさどる」ことは、これまで私たちが行ってきたことをベースに、新たにチャレンジする部分もあるのではないかと感じています。

そこで研究活動についても、第五次研究中期計画で示されてきた思いを引き継ぎながら、新たなチャレンジをしていきたいと考えます。

ぜひ、今年度の研究大会で第六次研究中期計画について、ご理解を深めていただきたいと思います。皆さまご参加のほど、よろしくお願いいたします。

研修報告



新任事務リーダー研修に参加して

吉賀町立柿木小学校 吉村 宏美

5月25日に開催された新任事務リーダー研修をオンラインで受講しました。午前中はWebexで接続し、「事務リーダーの職務」についての講義、「学校事務職員の職務(中央研修報告)」についての講義・演習、午後はZoomに切り替えて管理職研修(新任校長)と合同で「組織マネジメント」についての講義・演習を行いました。関係の皆様をサポートを受けながら、事前に接続テストも行って臨みましたが、パワーポイントの映像や講義の一部がうまく届かなかったといったトラブルも少しはありました。

事務リーダーに必要な指導力を身につける。適切な役割分担等により事務グループ業務を効果的に進めたり、OJTによるグループ内事務職員の資質能力の向上を図るための働きかけを行ったりすることができるようになる。校内においては、専門性を生かし、事務リーダーとして適切な対応や助言等を行うことができるようになる。そのためには、まず自分自身の資質能力の向上に努めていかなければならないと改めて思いました。

松江までは片道3時間半くらいかかるので、移動に係る負担がなかったという点では助かりましたが、私だけがオンラインでの受講でしたので、他の皆さんと直接会ってお話することができなかったことは、とても残念でした。他管内の事務グループ活動の様子等をうかがう機会は少ないので、次回12月の研修では直接情報交換ができることを願っています。



小・中学校事務職員主任主事研修(第1回)

大田市立鳥井小学校 岩谷 勇良

○講義「問題解決能力の向上」

まず「問題」が何かを明確にするために、問題の種類を考えたり、ブレインストーミングを行ったりして原因や課題を分析する方法を学びました。そして次に何をすべきかを考えるために、さらに課題を細分化して考えたり、マンドラートなどを使って視点を変えて考えたりする方法などを学びました。問題を解決するためには、現状と理想を把握し、問題や課題を明確にしたうえで、できるだけ多くのアイデアを出し、解決策を絞り込んで最適化することが重要であると思いました。

○中央研修報告・演習

中央研修ではカリキュラム・マネジメントや財務マネジメントなどの様々な「マネジメント」についてとりあげられました。私たち学校事務職員が学校運営に参画し「マネジメント」していくためには、学校の実態を把握したうえで、教育活動に必要な人的・物的資源などを学校事務職員の強み(予算や施設管理等に精通していることなど)を生かし、効果的に組み合わせるとともに、教職員や地域と協力・協働しながら提案し、実践し続けることが必要だと思いました。

演習では学校経営計画等をもとに学校改善プランを作成、提案しました。学習指導要領改訂を見据えた教材準備のための予算計画や、校外学習等に応じた補助金の活用、地域講師の人材データ作成、ICT機器の予算確保などが提案されました。

「学校事務職員は大きな存在である」

島根県教育庁浜田教育事務所 企画員 石川 大介

浜田教育事務所で3年目を迎えました。正直なところ、3年目でやっと総務課の仕事や雰囲気慣れてきました。20年以上勤めてきた学校現場の感覚が少し薄れていく…そんな複雑な感覚です。

さて、学校現場では経験できない様々な業務を担う中で、客観的に学校をみることができ、様々なことを感じています。その一つが「学校事務職員は大きな存在である」ということです。その理由は3つあります。

1つめは「**教職員にとって大きな存在である**」ということです。

学校事務職員のみなさんと大きく関わるのは、給与関係です。教職員一人一人の生活に直結している大事な業務です。教育事務所に提出される書類を確認・審査すると、年々精度が高くなり、事務職員一人一人の丁寧さがより伝わってきます。これは、一人一人の職員に寄り添うみなさんの姿勢であると思いますが、それに加え、共同学校事務室や事務グループでの実践の効果でもあると実感しています。事務リーダー、事務主幹、主任の方を中心に、よりお互いを刺激し合い、高め合いながら、人材育成、資質向上、事務処理の精度の向上につなげている証だと思っています。給与関係を担う事務職員は、教職員にとって大きな存在です。経験年数関係なく、事務レベルを平準化し、精度を高める日々の実践・取組に、改めて感動し、とてもうれしくなります。

2つめは「**学校にとって大きな存在である**」ということです。

5月から6月にかけて実施する教育事務所長学校訪問に、10年前ぐらいから総務課職員も一緒に同行させていただき、事務職員との情報交換・意見交換を実施しています。私は、学校で勤めていたとき、他の事務職員の方がどのような現場（職員室・事務室）で、どのような想いで仕事をされているのかとても関心がありました。一人職での勤務は、年数を重ねても不安と緊張は常にありました。そして現在、多くの事務職員のみなさんから様々な想いを聞かせていただきました。子ども・保護者に関わる事務について、職員との関わりについて、校舎（学校施設）について、地域についてなど、その学校ならではの想いをたくさん聞くことができました。一つとして同じような学校はなく、様々な色がある学校現場の中で、一番の最善を尽くすために日々考え、実践されているみなさんの姿がありました。まさに事務をつかさどるみなさんの姿でした。学校運営を支える、学校教育を支える事務職員の存在は改めて大きいものだ強く感じました。

3つめは「**私たちにとって大きな存在である**」ということです。

浜田管内には、約1200人の教職員の方がおられます。総務課は1200人の給与に関することを担っている…と言えば、大変な業務だろうと思うかもしれません。しかしながら、教職員の方との間に事務職員の皆さんがおられることで、窓口となって説明や相談をさせていただいているケースが多くあります。また、こちらのお願いや相談を快く引き受けていただいたこともありました。仕事をするうえで、とてもありがたく、私たちにとって大きな存在であることを日々感じています。

学校現場から少し離れたところで、私は改めて「学校事務職員は大きな存在である」ことを日々感じています。これからも皆さんと共に、学校に関わる教職員の皆さんが安心して仕事ができるよう精一杯努めていきたいと思っています。



浜田市学校事務グループ 及び 浜田市共同学校事務室 の活動について

浜田市では、令和3年度から「浜田市共同学校事務室」が設置され、新しい取組がスタートしました。組織の中では、3つの部をさらに業務分掌し、各自が役割分担のもと共同（協働）で複数校の事務業務にあたります。また、より適正化・効率化を図り、事務処理体制の整備や、事務職員の育成及び資質向上につながる研修等も行います。これまでの事務グループ活動も継続させ、ともに連携や調整を図りながらより充実した業務となるように取り組みます。

今年度は、試行錯誤の中でよりよい方法を探りながらの活動となります。しばらくは、私たち事務職員の業務負担増も避けられませんが、より確かな事務業務となるための一歩として、また、未来への投資として、一人ひとりがやりがいや希望を持って取り組めるよう、関係機関との連携を図りながら進めていきたいと思ひます。

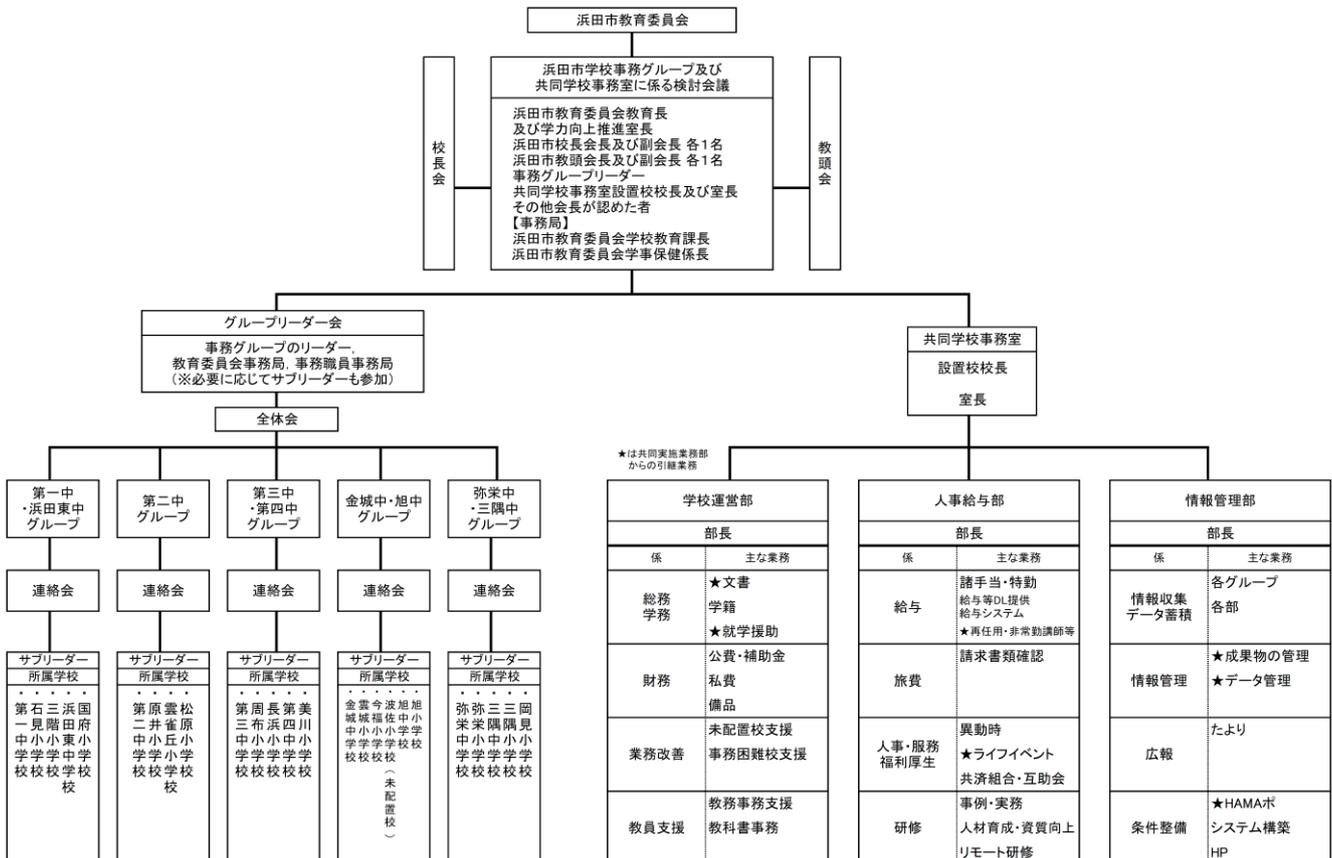
今後、事務職員一人ひとりが各学校の校務運営へより主体的・積極的に参画し、各学校の教育目標達成や浜田市教育方針への取組、さらには「浜田市学校業務改善プラン」に基づいた教職員の負担軽減など、さまざまな視点から浜田市内の小中学校における教育力の向上につながることをめざしていきます。



浜田市学校事務グループ及び浜田市共同学校事務室の組織図

浜田市学校事務グループ
【浜田市学校事務グループ運営要綱】

浜田市共同学校事務室
【浜田市立小中学校管理規則・浜田市共同学校事務室運営要綱】



今年度の活動及び業務計画



＜事務グループ＞

各グループとも、給与・旅費・財務事務等の相互確認は継続。

第一中・浜田東中	第二中	第三中・第四中	金城中・旭中	弥栄中・三隅中
<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善へ向けた取組 ・保護者負担軽減に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の相互支援 ・共同学校事務室との連携による業務改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理の情報交換及び相互支援 ・業務改善へ向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務未配置校支援 ・事務平準化に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質向上につながる研修 ・相互支援からの業務改善

＜共同学校事務室＞

各部において、常時・長期・中期・短期計画にもとづき業務を年間スケジュール化。

部	業務内容	具体的な業務
学校運営部	総務・学務に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・新就学援助システム稼働準備，要綱の見直し ・特別支援教育就学奨励費及び遠距離通学事務のシステム化 ・文書受付業務の簡素化と効率化 ・給食事務の効率化及び給食公会計化への取組
	財務に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・資金前渡システムへの対応 ・備品台帳への一括登録
	業務改善に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・事務グループ及び共同学校事務室の基本構想作成 ・勤務状況報告書，職免申請の簡素化
	教員支援に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書事務（需要数入力）の試行 ・賞状印刷システムを利用した効率化の検討 ・未配置校支援
人事給与部	給与に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・給与認定事務関係書類及びシステム入力データの審査及び確認業務 ・特殊事例の蓄積
	旅費に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・旅費請求事務の審査及び確認業務 ・特殊事例の蓄積
	システム構築に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・異動時や結婚，出産などライフイベントに係る事務処理システムづくり
	人材育成に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・給与認定事務や旅費請求事務に係る事例研修
情報管理部	各部やグループからの事例収集・蓄積	<ul style="list-style-type: none"> ・各部やグループからの事例収集・蓄積 ・事例等の情報提供
	グループウェアの導入に向けた連携	<ul style="list-style-type: none"> ・HAMA ポの再構築及び掲載データの収集 ・ICT ハンドブック（パンフレット）作成
	たよりによる広報	<ul style="list-style-type: none"> ・たより発行，各種情報提供
	条件整備	<ul style="list-style-type: none"> ・共同学校事務室の環境整備，資料収集 ・文書処理システム構築



美郷町立大和中学校



学校紹介

坂井 佳恵



ほく、大和中学校のキャラクターの「はんざけ」です。よろしくね!

美郷町は島根県のほぼ中央に位置し、雄大な「江の川」が流れている自然豊かな町です。校舎裏からも江の川がすぐそこに流れているのが見え、素敵な景色が広がっており、マイナスイオンが発生しているのでは!と思うほどです。毎日の通勤も四季の移り変わりを目にするのができとても癒されています。

本校は全校生徒 29 名で、素直で真面目な生徒が多く穏やかで落ち着いた生活を送っています。部活動は卓球部と剣道部の 2 つだけですが全員どちらかに入部し活動しています。昨年度はコロナ禍のため学校行事も縮小や中止となるものがありましたが、今年度は感染症対策を行いながらほぼ通常どおりの学校生活を送ることができています。美郷町は ICT 環境も H27 年度から本格的に整備され、最近ではタブレット等の ICT 機器は「ないと困る」という声が聞かれるようになっていきます。ICT 支援員や地域支援コーディネーターが配置されているので、総合的な学習の取組や ICT 教育などの教育活動を大きく支えてもらっています。

さて、美郷町は小学校 2 校、中学校 2 校の 4 校で共同実施の活動を行っています。この時期に行う活動で「修繕カルテ」の作成があります。来年度の修繕や大型備品の要望を各校で作成して持ち寄り、教頭会と合同で 4 校全体を見通した修繕関係等の予算要望資料を作成する取組です。大和中では毎年、職員だけの意見をもとに資料を作成していましたが、今年度は生徒の声も聴いてみたいと思い、学校の施設や備品のことについてアンケートを取ってみました。中学生はあまり反応がないかなと思いきや、生徒目線じゃないと気づかないような回答が結構出てきました。「机がガタガタする」「更衣室に時計がほしい」「机の大きさをそろえてほしい」などすぐに対応できるものについては整備を行ったり、来年度の修繕要望資料に載せたい内容もあったりして、生徒の意見が参考になりました。中には「ロボット掃除機がほしい」「教室で猫を飼いたい」「校庭にジェットコースターがほしい」など思わず笑ってしまう回答がありましたが、職員にアンケート結果を回覧すると「生徒がこんなこと思ってるなんて知らなかった」などの反応があり大人目線や感覚だけでは気づかないことが結構あると気づかされました。アンケートの回答に対してどんな対応をしたのか、それを生徒にどの様に知らせたらよいか只今検討中ですが、安心・安全な学習環境に整えるため、考え行動していきたいと思っています。



ほくとけん Vol.6



原作・画 : 佐伯 圭一

【編集後記】

皆さん、『中国自然歩道』をご存知ですか? 人々に地域の自然や文化的遺産を親しんでもらおうと整備された長距離自然歩道の中国地方版です。総延長はなんと中国 5 県で約 2,300km! 島根県だけでも約 650km あります。実は我が家の近所にもあり、試しに 10km ほど歩いてみました。眼前には雄大な自然や歴史ある街並が広がり、自分の地元にはこんな良い所があったのか!とワクワクしながら歩きました。コロナ禍で遠出しづらい昨今、地元の魅力を再発見してみたいはいかがでしょうか。(M.K)